ディーブイエックス

3079 ジャスダック

Company Research and Analysis Report FISCO Ltd. http://www.fisco.co.jp

2013年6月28日(金)

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

企業調査レポート 執筆 客員アナリスト 佐藤 譲

■26期連続の増収増益、連続増配記録も更新

循環器系の医療機器販売会社。不整脈事業と虚血事業が2本柱。不整脈事業の市場シェアは関東圏で37~38%とトップ、虚血事業では海外製医療機器の輸入販売を手掛ける。営業サポート力を武器に不整脈事業でシェアを拡大中。

2013年3月期の業績は、売上高で前期比11.6%増、営業利益で同26.0%増と26 期連続の増収増益となり、上場以来の連続増配記録も更新した。不整脈事業においては保険償還価格の改定による売価ダウンはあったものの、販売数量の増加や新規顧客開拓などでカバーした。また、虚血事業では冠動脈治療用レーザに保険の適用が開始されたこともあって販売が拡大するなど、両事業ともに好調に推移した。

2014年3月の業績計画は、売上高で前期比9.1%増、営業利益で同3.3%増と引き続き拡大基調が続く見通し。不整脈事業では営業エリア拡大に伴い新規顧客の開拓効果が継続するほか、虚血事業においてもエキシマレーザの設置が前期比2.2倍の20台と急拡大が見込まれる。営業利益率が若干低下すると見込んでいるのは、エキシマレーザ新用途の治験に関する費用を今期計上しており、薬事承認に向けた費用を約150百万円見込んでいるのが主因だ。とは言え、売上計画において保守的な印象が強く、業績計画は若干上振れる可能性があるとみている。

同社は2007年4月の上場以来、連続増配記録を続けており、2014年3月期も配当性向20%を基準として前期比1円増配の26円とする予定だ。株主還元策の一環として株主優待制度(クオカード1,000円分相当)も2013年3月より導入するなど、株主還元にも注力している。高齢化社会が進むなか、業績は中長期的に安定成長が継続する見通しで、配当成長銘柄として引き続き注目されよう。

Check Point

- ・市場シェアは関東圏37~38%、全国17%と不整脈分野最大手
- 潜在患者の増加とエキシマレーザの拡販で中期も安定成長へ
- ・上場来の連続増配記録を更新中、更なる増配の可能性も

売上高と経常利益の推移





市場シェアは関東圏37~38%、全国17%と不整脈分野最大手

(1) 会社沿革

同社は主に不整脈、虚血性心疾患などの循環器分野に特化した医療機器販売会社である。営業エリアは関東圏が中心だが、西日本や東北など全国に営業エリアを拡大中。主力の不整脈関連製品の市場シェアは、関東圏で37~38%、全国でも17%のシェアを持つ不整脈分野最大手。虚血関連では主に海外製医療機器の輸入総代理店として展開している。売上高、経常利益ともに26期連続で成長を続けている。

売上高と経常利益の推移(単体)

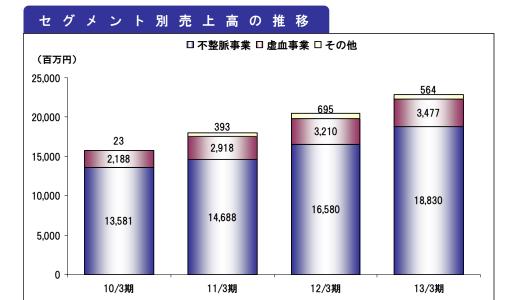


不整脈事業と虚血事業の売上高で全体の97%以上を占める

(2) 事業概要

同社の事業は「不整脈事業」「虚血事業」「その他」と3つの事業に区分されている。2013年3月期の売上高構成比は、「不整脈事業」が82.3%、「虚血事業」が15.2%と2事業で全体の97%以上を占めている。セグメント別の粗利益率でみると、「不整脈事業」が14.0%、「虚血事業」が39.4%と「虚血事業」のほうが高くなっている。これは、「虚血事業」が主に海外製医療機器の輸入総代理店として国内の商社向けに医療機器を販売しており、価格支配力が強いことが要因として考えられる。一方、「不整脈事業」では、メーカーまたは商社から関連製品を仕入れて医療施設に販売するビジネスモデルであり、同じ製品を取り扱う同業他社が多く、価格競争が生じやすい事業環境にあると言える。





〇「不整脈事業」

同事業での取扱製品は、心臓ペースメーカ、ICD(植込み型除細動器)、CRT-D(両室ペーシング機能付き植込み型除細動器)、電極カテーテル、アブレーション(心筋焼灼術)カテーテルなどが挙げられる。売上構成比としてはカテーテル(アブレーション用含む)、が約4割と最も大きく、残り6割を心臓ペースメーカとICD(CRT-D含む)で分けあう格好となっている。販売先は最終顧客である医療機関が多いが、なかには医療機関における医療機器や医薬品などの調達支援・在庫管理業務を行う企業(いわゆる、SPD業者)が販売先になるケースもある。ただ、この場合も経由するのはお金の流れだけで、実際の営業コンタクト先は医療機関であり、物流に関しても直接、医療機関に向けて配送されている。

不整脈関連製品







不整脈関連製品情報

・心臓ペースメーカ 不整脈のうち主に脈が遅くなる「徐脈」を治療する機器。心臓の拍動が低下したときに、心臓の代わりに刺激を発生させる機器が心臓ペースメーカで、絶えず心臓を監視しており、設定した最低限の脈拍が出ていれば心臓ペースメーカは作動しない仕組みとなっている。

主に「心室頻拍」や「心室細動」と呼ばれる重篤な頻脈の治療に用いられる。心室頻拍とは心拍が異常に速くなる不整脈のことで、180~220拍/分(正常は60~100拍/分)という非常に速いリズムで心臓が動くため血液が送り出せず、めまいや失神状態を引き起こす。また、心室細動とは心室が小刻みに痙攣する状態のことで、心臓から血液が殆ど送り出されず意識不明となり、放置すると死に至る。ICDはそのような頻脈が発生した際

に、電気ショックパルスによって不整脈を止める仕組みとなっている。

CRT-D (両室ペーシング機能付き 植込み型除細動器)

ICDの機能と心不全の治療の一種である心臓再同期療法の機能を併せ持つ医療機器。心臓再同期療法とは、心臓内の収縮のタイミングのズレをペースメーカ等で補正することで、正常に近いポンプ機能をとり戻す治療法のことを言う。右心房 右心室のほかに、心臓の左右の収縮するタイミングのズレを補正するペーシングを行うために、冠状静脈内へもリードが留置される。2006年8月に保険適用を受けて以降、ICDと比較して適用範囲が広いこともあり、ICDを上回るペースで市場が伸びている。

電極カテーテル

電極カテーテルは、先端部分に電極が埋め込まれたカテーテルで、心臓ペースメーカや ICD(植込み型除細動器)の適応決定の際などに用いられる検査器具のこと。心腔内に電極 カテーテルを挿入し、不整脈の発生原因や発生場所、重症度の評価などを調べる。

アブレーション (心筋焼灼術) カテーテル 電極カテーテルの一種で、頻脈の原因となる心筋組織を焼灼し根治させるアブレーションといわれる手技に使用されるもの。アブレーションとは、心腔内に留置したカテーテルに外部から高周波エネルギーを通電し、不整脈の原因となっている部位を焼灼し組織的に壊死させる治療法のこと。WPW症候群と呼ばれる症状のほか、房室結節リエントリ性頻拍、心房粗動、心室頻拍に加え、心房細動の治療に用いられるようになるなど、対象となる症例の範囲が年々拡大していることから、高い成長が続いている。

〇「虚血事業」

同事業における取扱製品としては、自動造影剤注入装置(ACIST)、エキシマレーザ血管形成システム、PTAバルーンカテーテルなどがあり、それぞれ同社が国内総代理店となって、販売代理店を通じて全国の医療施設に販売している。2000年に輸入販売を開始した自動造影剤注入装置は、装置本体の市場シェアで48%、消耗品の市場シェアで60%を占める製品となっており、同事業が高い利益率を維持している要因にもなっている。装置本体の累計販売台数は500台で、国内での普及はほぼ一巡しており、現在は装置本体のリプレース需要に加えて、消耗品販売が売上の中心となっている。エキシマレーザは、2012年7月にコロナリー(冠動脈治療用)カテーテルの保険適用が認可されたことで、普及が本格的に始まった製品であり、今後適用領域の拡大も含めて拡大が期待できる医療機器だ。なお、PTAバルーンカテーテルについては、朝日インテック<7747>の100%子会社であるフィルメックに製造委託している。

虚血関連製品



出所:会社HPより引用



虚血関連製品情報

製品名	製品概要	製造メーカー
自動造影剤注入装置 「ACIST」	「ACIST」は心臓冠動脈の血管造影検査において、造影剤注入の流量・流速を可変制御するインジェクタシステム。①心臓左室と冠動脈の両部位に使用できる②特殊ハンドコントローラにより微妙な吐出制御が可能③造影剤と生理的食塩水を自動切換できる、などの特徴を持っている。	米ACIST Medical Systems
PTCAパルーンカテーテル 「ラピスブルー」	心筋梗塞や狭心症など虚血性心疾患を経皮的に治療する方法をPCIと呼び、 PTCAバルーンカテーテルはこのPCIで使用される医療器具の一つ。先端にバルーンを装備しており、コレステロール等が沈着して狭くなった血管内でバルーンを膨らませて押し広げ、狭窄した部分を拡張する役割を果たす。	フィルメック (朝日インテックの 子会社)
エキシマレ ーザ 血管形成システム 「CVX-300」	レーザ光を照射し、冠動脈内で石灰化、繊維化したプラーク(コレステロール)を蒸散させ除去する治療機器。紫外線領域の波長のため熱発生が少なく、また、到達範囲が0.005mmと非常に限定されるので合併症の発生も少なく良好な結果を得ることができる。「CVX-300」は冠動脈以外にも末梢血管治療、心臓ベースメーカ及びにD(植込み型除細動器)用リード抜去治療にも適用することができるのが特徴。	米Spectranetics

〇その他

その他の製品としては、術者の被曝を防ぐ Worldwide Innovations & Technologies社製のエックス線防護シールド「RADPAD」、心臓ペースメーカやICD(植込み型除細動器)の全データを集録した「ペースメーカ・ICDデータブック」の販売を手掛けているが、売上規模としては小さく、同社全体の収益に与える影響は軽微となっている。

■決算動向

26期連続の増収増益、償還価格引下げのなか収益性を向上

(1) 2013年3月期の通期業績

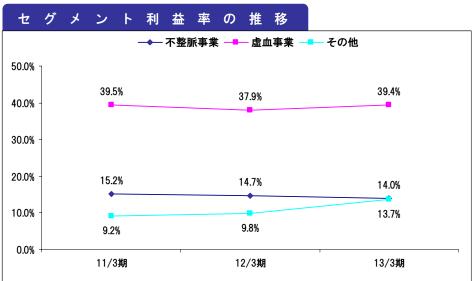
2013年5月15日付で発表された2013年3月期の通期業績は、売上高が前期比 11.6%増の22,872百万円、営業利益が同26.0%増の1,124百万円、経常利益が同 26.7%増の1,106百万円、当期純利益が同43.4%増の682百万円となった。26期連 続の増収増益を継続したほか、1株当たり配当金も25円と株式上場(2007年4 月)以来の連続増配記録を更新している。

売上高営業利益率は4.9%と前期比で0.5ポイント上昇した。2年に一度改定される保険償還価格の引下げの影響があるなかで、引き続き収益性を向上させたのは注目されよう。営業利益率を分解すると、粗利益率が前期比0.3ポイント低下したものの、販管費率が0.8ポイント低下したことが営業利益率の上昇に寄与した格好となっている。粗利益率の低下要因は、相対的に利益率が低い不整脈事業の好調が挙げられる。同事業の増収率が13.6%増と大きく、売上構成が前期の80.9%から82.3%へと上昇した影響が大きい。

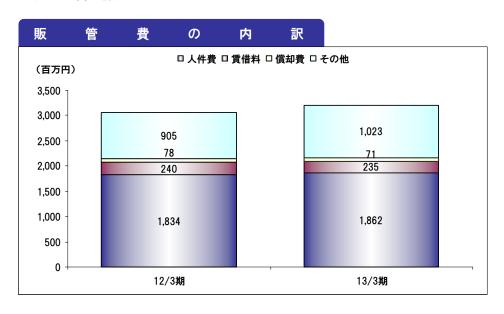
一方、販管費率の低下要因は、増収効果に加えて人件費や賃借料などの固定費を抑制できたことが大きい。人件費に関しては、人員の増加は続いているものの、新規採用において新卒者を中心に採用するなど、全体的に若返りが進んでいることで総人件費が抑えられた格好となっている。







※社内共通費用を除く







※有利子負債比率=有利子負債÷株主資本

不整脈事業では新規顧客の開拓効果で2ケタ増収を達成

セグメント別の状況は以下の通り。

〇不整脈事業

不整脈事業の2013年3月期の業績は、売上高で前期比13.6%増の18,830百万円、セグメント利益で同8.1%増の2,642百万円となった。前述したように保険償還価格の改定に伴う売価ダウンの影響はあったものの、既存顧客における販売数量の増加に加えて西日本(広島、大阪)、東北(宮城)、関東北部(栃木)における新規顧客の開拓効果により2ケタ増収を達成した。増収分の約3分の1は新規顧客開拓によるものとなっている。特に、不整脈検査・治療では、国内有数の症例件数を持つ医療施設を新規顧客として獲得したことが大きかった。

主力製品別の数量ベースでの動向は、ペースメーカが前期比横ばい、ICDが 微増、CRD-Tが2割強の増加、アブレーションカテーテルが2割増となった。

セグメント利益率が14.0%と前期比で0.7ポイント低下したが、この要因としては2つ挙げられる。1つ目は、検査用カテーテルで2011年3月期に投入した新製品が2012年3月期の売上に大きく寄与したことだ。新製品、とりわけ業界で先駆けとなる新製品が投入されたときは、当該新製品の利益率は低くなる傾向にある。と言うのも、他社で同じような機能の製品が無いことから、売り手であるメーカー側の価格決定力が強くなるためだ。逆に言えば、同様の機能を持った製品が同業他社から出始めると価格競争が起きるため、同社のような買い手側の価格交渉力が増すことになる。セグメント利益率の低下要因の2つ目は、CRD-Tの売上構成比率が上昇したことによる影響だ。CRD-Tは他の製品に比べて価格が高いため、利益率で相対的に低くなる傾向にある。





〇虚血事業

虚血事業の2013年3月期の業績は、売上高で前期比8.3%増の8,477百万円、セグメント利益で同12.6%増の1,369百万円となった。収益拡大に繋がった要因は大きく2つある。1つ目は、同事業の売上の約5割を占める自動造影剤注入装置「ACIST」関連が装置本体のリプレース期に入ったこともあり、前期比10%弱の伸びとなったことである。2つ目は、エキシマレーザにおいてコロナリー(冠動脈治療用)カテーテルの保険適用が2012年7月に認可されたことで、装置本体の施設導入台数が前期比9台増の31台となり、併せて消耗品であるカテーテルの販売数量が大きく伸びたことである。具体的には、リード抜去用のカテーテルが前期比約80%増、コロナリーカテーテルが約15倍に増加した。「ACIST」関連、エキシマレーザ関連とも利益率が40%以上と高いことから、セグメント利益率に関しても前期比1.5ポイント上昇の39.4%となった。





治験費用、増員、円安で増益率は鈍化も増収増益基調は継続

(2) 2014年3月期の業績見通し

2014年3月期の業績見通しは、売上高で前期比9.1%増の24,961百万円、営業利益で同3.3%増の1,161百万円、経常利益で同4.7%増の1,158百万円、当期純利益で同0.7%増の687百万円となっている。増収増益の見通しだが、利益率の低下と増益率の鈍化を見込んでいる。

売上高に関しては、不整脈事業、虚血事業ともに増収基調が続く見通しのほか、脳外科関連分野(その他部門に含む)の医療材料にも注力していく方針で、同分野の売上増を見込んでいる。虚血事業においては後述するが、今期の売上計画はやや保守的な印象が強く、エキシマレーザの販売増も見込めることから、売上高は若干上振れする可能があるとみている。

利益の伸びの鈍化を見込んでいる要因は、以下の3点が挙げられる。第1に、エキシマレーザの適用領域拡大のため、薬事承認に向けた治験費用を約150百万円見込んでいること、第2に、人員の増強に伴う人件費の増加(20名の人員増に伴い100百万円前後の増加)を見込んでいること、第3に、円安による虚血事業の利益率低下が想定されることである。虚血事業に関しては、主力製品をUSドル建てで輸入しているため、円安の進展により仕入コストの上昇を見込んでいる。同社では1円/ドルの円安で10百万円の営業減益要因になると試算しているが、2013年3月期の平均為替レート83円/ドルから2014年3月期は95円/ドルを見込んでおり、約120百万円の仕入コスト増となる計画。なお、今期は新たに福井(不整脈事業)と名古屋(虚血事業)に出張所を2013年4月に開設済みのほか、もう1カ所、首都圏で新設を計画している。

セグメント別の業績動向

(単位:百万円)

	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期
売上高				
不整脈事業の売上高	13,581	14,688	16,580	18,830
虚血事業の売上高	2,188	2,918	3,210	3,477
その他	23	393	695	564
合計	15,793	18,000	20,487	22,872
セグメント利益				
不整脈事業	2,246	2,237	2,443	2,642
虚血事業	926	1,151	1,215	1,369
その他	12	36	68	77
共通費用	-2,523	-2,645	-2,834	-2,964
営業利益	661	779	892	1,124
セグメント利益率				
不整脈事業	16.5%	15.2%	14.7%	14.0%
虚血事業	42.3%	39.4%	37.9%	39.4%
その他	52.2%	9.2%	9.8%	13.7%
営業利益率	4.2%	4.3%	4.4%	4.9%



虚血事業ではエキシマレーザ販売台数の大幅増を見込む

セグメント別の見通しは以下の通り。

〇不整脈事業

不整脈事業の2014年3月期の見通しは、売上高で前期比7.8%増の20,294百万円としている。保険償還価格改定の影響がなくなるため、数量増が売上増にほぼ直結する格好となる。また、前期に開拓した新規顧客での売上拡大を進めるほか、今期においても地方拠点などで更なる新規顧客の開拓を進めていき、着実に市場シェアの拡大を進めていく戦略だ。

〇虚血事業

虚血事業の2014年3月期の見通しは、売上高で前期比9.0%増の3,791百万円としている。「ACIST」のリプレース需要が継続するほか、コロナリーカテーテルの普及拡大により、エキシマレーザの販売台数を前期の9台から20台へと大幅増で見込んでいる。エキシマレーザの装置本体は1台約30百万円することから300百万円強の増収効果が期待されるほか、消耗品であるカテーテルの売上増も期待される。なお、事業所として2013年4月に名古屋出張所を開設しており、同エリアにおける代理店販売も強化していく。

エキシマレーザの導入施設は、計画通り販売が進めば全国で50施設に拡大することになる。ただ、導入対象となる医療施設は全国で350ヶ所あるとみられており、競合機器メーカーもでてきていないことから、最大で残り300台のエキシマレーザの需要が見込めることになる。ただ、まだ同装置を扱える医師の数が圧倒的に少なく、現在は講習会を各地で開いて扱える医師の数を増やしていく段階にある。扱えるようになるには、ベテランの医師が最低でも2症例は立ち会う必要があるため、一気に普及が進むとは言えないまでも、今後も着実に普及拡大が進む可能性は高い。というのも、エキシマレーザによるコロナリーカテーテル手術が、「急性心筋梗塞」患者に有効とのレポートが出てきているためだ。

急性心筋梗塞は、発症すれば致死率が高いとされている。現在の治療法は、バルーンカテーテルで冠動脈の詰まっているところを広げてやり、ステントで血流を保持する方法が一般的である。しかし同術式の場合、動脈が詰まる原因となった血栓を事前に溶解するための薬剤を投入後にバルーンカテーテルで血管を膨らませるといった工程となるため、時間がかかる。一方、エキシマレーザでは、エキシマ光線で血栓を溶かしながらカテーテルを患部まで移動させることが可能なため、時間の短縮が図れるメリットがある。急性心筋梗塞では治療に一分一秒を争うケースが多いため、エキシマレーザによる治療法が普及する可能性は十分あると言える。同症例におけるバルーンカテーテルとステントの国内市場規模は年間で600億円と大きいだけに、今後の動向が注目されよう。

〇その他

その他事業の2014年3月期の見通しは、売上高で前期比55.3%増の876百万円を見込んでいる。売上増を見込んでいるのは、脳外科関連の医療材料や手術用品が中心となる。同商材は3年前に静岡の医療商社であるメディカルプロジェクトから買収した代理店事業で、買収から3年が経過し、同分野も販売強化をしていく方針としている。

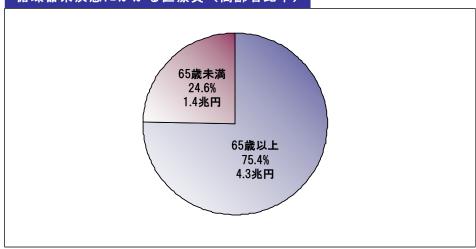


■中期見通し

潜在患者の増加とエキシマレーザの拡販で中期も安定成長へ

2015年3月期以降の業績に関しても、安定成長が続く可能性が高い。その背景としては大きく2つある。1つ目は、同社が取り扱う循環器系の医療機器が必要となる対象患者は、患者全体の75%超を占める65歳以上の高齢者であり、今後も国内の高齢者人口が年率2%のペースで2020年度まで拡大すると予見されていること。2つ目は、高齢者全体の約2%にあたる約58万人(全年齢の人口では約100万人と推計)が不整脈を抱えているとされているが、そのうち心筋焼灼術などの手術による治療が行われているのが年間で約3.6万症例しかないことである。

循環器系疾患にかかる医療費(高齢者比率)



出所:厚生労働省

65 歳 以 上 人 ロ の 将 来 推 計



出所:総務省、国連推計データを基にフィスコ作成

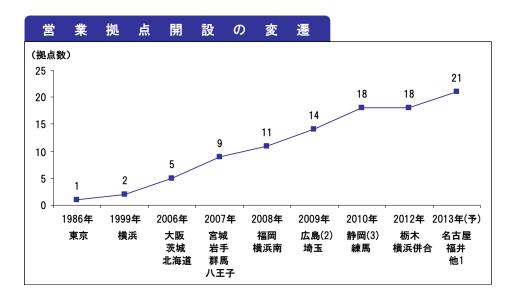


■中期見直し

不整脈を抱えている患者のうち、治療代が高いために投薬治療のみで済ませている患者もまだ相当数にのぼるとみられる。こうした患者は、診療報酬改定により治療代等が安くなればICDやCRT-Dなどの新規需要先として見込まれることになる。また、施術を行う医師が不足していることも現状の医療業界の課題としてあり、こうした医師の増加によっても対象機器の需要が拡大していくものと思われる。

同社は今後、地方の顧客開拓を強化していく方針で、今後も年間2ヶ所前後のペースで拠点数を増やしていく考えだ。地方においては不整脈に関しての専門的な技術や医療機器に対する知識を持った営業マンは少ないため、同社の特徴である「営業提案力」が新規顧客開拓にあたっての強みになるものと考えられる。

ちなみに、同社のエリア別売上構成比は、関東圏が依然として90%以上となっている。焼灼術の症例件数でみると、全国に占める関東圏のシェアは約38%となっており、関東圏以外における開拓余地はまだまだ大きいと言えよう。不整脈事業における国内市場シェアは2013年3月期で約17%と年々上昇傾向にある。関東圏での市場シェアが37~38%程度であることから、もう一段の上昇余地があると考えられる。



不整脈事業売上高と市場シェア ■ 売上高 一 市場シェア (億円) 250 20.0% 17.6% 18.0% 15.8% 200 188 16.0% 14.5% 13.8% 13.0% 165 14.0% 11.7% 146 150 135 12.0% 112 10.0% 101 100 8.0% 6.0% 50 4.0% 2.0% n 0.0% 2007年 2008年 2009年 2010年 2011年 2012年





■中期見直し

一方、虚血事業に関しては、主力製品の「ACIST」関連は国内での普及がほぼ一巡していることから、今後の大きな成長は見込みづらいものの、前述したように2013年3月期より本格的な導入が始まったエキシマレーザ血管形成システム関連の成長が期待される。導入施設数は今期末で50施設を見込むが、潜在的には350施設までの導入が見込まれるためだ。適用症例の拡大も進めていく方針であり、装置本体の売上増に加えて消耗品の売上増も見込まれ、中長期的な拡大が期待できよう。

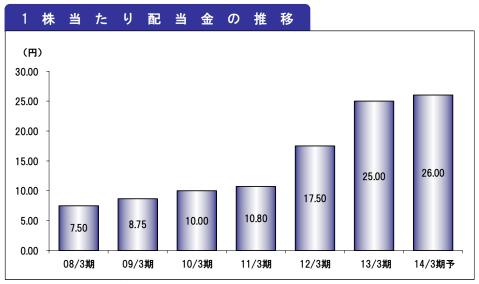
なお、虚血事業においては今後も「Only One」の製品を発掘し、国内で流通させることを目的に、マーケティング部門や薬事品質保証部門の強化を進めていく方針だ。

■株主還元策

上場来の連続増配記録を更新中、更なる増配の可能性も

株主還元策として、同社は配当性向20%を基準に安定配当を目指す方針としている。2013年3月期も一株当たり配当金として25円と実質7.5円の増配とし、2014年3月期も1円増配の26.0円と上場来の増配記録の継続を予定している。配当性向で21.3%の水準となるため、業績が予想を上回れば更なる増配の可能性もある。

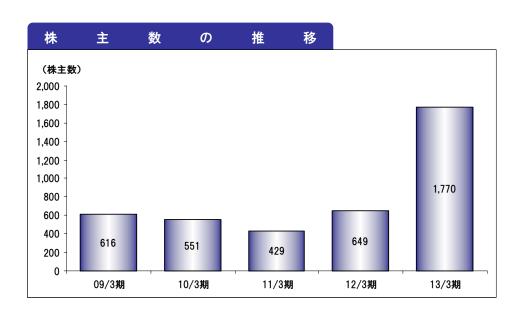
また、2013年3月期から株主優待制度も新たに導入している。2013年3月末現在の株主(100株以上)に対して、一律でクオカード(1,000円相当)を贈呈するというものだ。業績好調に加えて積極的な株主還元策を示すことで、2013年3月期末の株主数は前期比2.7倍増の1,770名に急増した。東証の上場基準である800人を超えており、今後の東証への上場も視野に入ってきたものと思われる。



※2011年10月1日および2012年10月1日付けで1→2株の株式分割を実施 1株当たり指標については株式分割を遡及して修正



■株主還元策



損益計算書

(単位:百万円、%)

	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期予
売上高	15,793	18,000	20,487	22,872	24,961
(対前期比)	20.7	14.0	13.8	11.6	9.1
売上原価	12,608	14,575	16,759	18,782	
(対売上比)	79.8	81.0	81.8	82.1	
販管費	2,523	2,645	2,834	2,964	
(対売上比)	16.0	14.7	13.8	13.0	
営業利益	661	779	892	1,124	1,161
(対前期比)	42.7	17.9	14.5	26.0	3.3
(対売上比)	4.2	4.3	4.4	4.9	4.7
営業外収益	14	11	1	5	
受取利息•配当金	1	0	0	0	
その他	12	11	1	5	
営業外費用	6	6	20	24	
支払利息・割引料	6	5	3	2	
その他	0	1	16	21	
経常利益	668	784	873	1,106	1,158
(対前期比)	27.2	17.3	11.3	26.7	4.7
(対売上比)	4.2	4.4	4.3	4.8	4.6
特別利益	2	11	21	0	
特別損失	59	183	27	1	
税引前利益	611	611	867	1,104	
(対前期比)	22.0	-0.1	41.9	27.3	
(対売上比)	3.9	3.4	4.2	4.8	
法人税等	287	254	391	421	
(実効税率)	46.9	41.6	45.1	38.2	
少数株主利益	-	-	-	-	
当期純利益	324	357	476	682	687
(対前期比)	16.9	9.9	33.3	43.4	0.7
(対売上比)	2.1	2.0	2.3	3.0	2.8
発行済株式数(千株)	5,640	5,640	5,640	5,640	5,640
1株当たり利益(円)	58.12	63.34	84.42	121.08	121.92
1株当たり配当(円)	10.00	10.75	17.50	25.00	26.00
1株当たり純資産(円)	394.04	447.24	521.66	628.11	20.00
配当性向(%)	17.2	17.0	20.7	20.6	21.3
ROE(%)	15.7	15.1	17.4	21.1	20
※2011年10月1日および2012年10月1日付けで1→2株の株式分割を実施					

※2011年10月1日および2012年10月1日付けで1→2株の株式分割を実施 1株当たり指標については株式分割を遡及して修正



ディスクレーマー (免責条項)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪証券取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。 "JASDAQ INDEX"の指数値及び商標は、株式会社大阪証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであgり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との面会を通じて当該 企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他 全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容 は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願いします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ

